

株式会社 J A アグリ三次の研修農場において農業版 iCD を活用した 新規就農者の育成システムの運用を開始

J A、自治体、農業法人が連携し、新規就農者の成長をクラウドサービスにより効率的に支援

J A 出資型農業法人である株式会社 J A アグリ三次（広島県、代表者名 富野井利弘）、J A 三次（広島県、代表者名 富野井利弘）は、J A アグリ三次が運営する新規就農者の研修農場において、広島県、三次市、株式会社日立ソリューションズ東日本の支援を受け、『農業人材の成長を見える化する農業版 iCD』（以下、農業版 iCD）を活用した新規就農者の教育システムを構築しました。

2023 年 3 月より、構築した教育システムを運用する人材育成支援クラウドサービス「TOP FARMERS」（有限会社トッピーバーアカデミーが提供）を導入し、本格運用を開始しております。

■農業における課題

農業界では、農業従事者の高齢化が進むとともに、農業人口は減少を続けており、人手不足が深刻化しています。地域における新規就農者の育成は急務となっています。

この問題における解決策の一環として、新規就農者を育成する実地研修等が行われていますが、研修時の営農技術習得状況の把握、及び研修後の就農における営農状況の把握をサポートする仕組みが構築されていないのが現状です。

また、農業においては、営農に必要な技術である栽培技術や経営技術が体系化、明文化されていない場合が多く、経験則を元に新規就農者の指導が実施されていることも大きな課題となっております。

こうした課題の解決に向けて、株式会社 J A アグリ三次が運営するアスパラガス・ぶどうの研修農場において、農業分野において優れた栽培技術、営農ノウハウ、知見を持つ株式会社グリーンカウベル、木津田産業の栽培技術、営農ノウハウを、株式会社日立ソリューションズ東日本、有限会社トッピーバーアカデミーの支援を得て農業版 iCD により体系化、整理し、新規就農者の成長を支援する教育システムとして構築、運用を開始しました。これにより、研修生の営農能力が把握でき、経験則だけではなく、数値化された客観的な指導が可能になりました。

構築においては、農林水産省の令和 4 年度中山間地農業ルネッサンス推進事業を活用しております。

■農業版 iCD による新規就農者支援

2022 年 9 月～2023 年 2 月にかけて、J A アグリ三次の研修農場の一つであるアスパラガス、およびぶどうの新規就農者育成において、農業版 iCD により、体系化し、研修生の営農技術の習得状況の診断を行い、研修生の成長を促す仕組みの構築を行いました。

2023 年 3 月より、構築した仕組みの本格運用を開始し、新規就農者の育成に役立てております。

【1st Step】：新規就農に必要な栽培技術、営農ノウハウ、知見の体系化、整備

- ・アスパラガス・ぶどうそれぞれにおいて、新規就農時に必要な営農技術のうち、栽培技術、生産マネジメント技術を整備、クラウドサービスに登録

【2nd Step】：研修生の診断

- ・クラウドサービスを利用して、研修生（1 年目、2 年目）の診断を行い、栽培技術、生産マネジメント技術の習得状況を把握。

【3rd Step】：e-ラーニング（教育コンテンツ）の整備

- ・栽培技術、生産マネジメント技術の習得を効果的に進めるための教育コンテンツを準備。クラウドサービス上で研修生がいつでも受講できる環境を構築。

今後は教育コンテンツの拡充及び、就農に必要な技術の整備等を行い、JAアグリ三次、JA三次、広島県、三次市、農業法人が連携して、地域における持続可能な営農活動を実現する新規就農者を研修生として2年間の期間で育成し、営農を継続的に支援する仕組みの構築を目指しております。

■農業版 iCD 概要

農業版 iCD は、情報処理推進機構 (IPA) が提供する、企業において IT を利活用するビジネスに求められる業務 (タスク) と、それを支える IT 人材の能力や素養 (スキル) を「タスクディクショナリ」、「スキルディクショナリ」として体系化した「i コンピテンシ ディクショナリ」(以下、iCD) を農業法人の監修のもとに農業向けに適用したものであり、農業界に導入することで、効率的な農業を実践できる人材の育成を支援します。農業界では 2021 年 4 月から長野県の農業法人有限会社トッピーバーにおいて導入、運用されております。

農業版 iCD では、農業のライフサイクル「戦略・営業・生産・評価改善」のタスクをベースに、リソースやスキルを見える化し、それぞれにタスクレベルを設定しました。また、タスクレベルに合わせた教育コンテンツを提供し、習得度の測定を行うことにより、農業における導入・運用を可能としております。本取り組みにおいては、長野県の農業法人にて構築した「農業版 iCD」をベースに構築し、タスクに連動させた人材育成プログラムの受講と農作業を実施する計画です。

■農業版 iCD の特長

- 1) 業務 (タスク) を体系化、業務の全体像を把握し、課題が見える。
- 2) 一人ひとりの業務 (タスク) の遂行能力とスキルレベルを把握できる。
- 3) 自分自身の成長度合いを見える化し、成長のモチベーションにつながる。
- 4) 個人の強み、弱みに合わせた、効果の高い教育できる。また、教育コンテンツの再利用が可能。
- 5) 生産者 (地域) の強み・弱みが視覚的に把握でき、注力すべき業務・教育がわかる。

■農業版 iCD 導入の効果

<個人の効果>

- 1) 自己診断を実施することにより、自己理解と成長へのモチベーションにつながった。
- 2) 座学研修前後で自己診断を実施したが、生産計画やリスクマネジメントなど目に見える形で効果がわかった。
- 3) 年次教育教育の目標値として、診断レベルを利用することで、明確なキャリアパスが示せると考える。

<経営効果>

- 1) 名もなき業務の明確化により、業務引継ぎ等の効率化が期待できる。
- 2) 独立を目指していく中で、経営への参画意識が高まった。

■ J A アグリ三次

本社所在地：広島県三次市廻神町 3370 番地

代表取締役：富野井 利弘

設立：2016 年 7 月 29 日

資本金：34,200 千円

事業概要：①農業生産（アスパラガス、白ネギ、ブドウ等）、②新規就農者研修、③農業体験 他

URL：www.ja-miyoshi.or.jp/agri.php

当リリースに関するお問い合わせ先

株式会社 J A アグリ三次

担当：永山

Mail：sien@pl.pionet.ne.jp

Tel：0824-66-3801